

# 標語部門

「テーマ」外国人

なぜ差別

みんなの個性

受けとめて

「テーマ」障害者の人権

見ているだけじゃ変わらない

さしのべよう 救いの手を

希望の光を

「テーマ」インターネットによる人権

たった一言

されど一言

あなたの言葉が心をえぐる



大崎中学校3年

はまぐち そうた  
濱口 壮泰 さん



大崎中学校2年

まえさこ たつき  
前迫 龍樹 さん



大崎中学校1年

おおかわ あいり  
大川 藍理 さん



最優秀賞

『ある陸上選手との

出会いから』

中沖小学校 6年

かみむら  
上村 日陽里さん

人権は誰にでもあるもので、もちろん障害者の方にもあるものです。しかし、障害者が差別されることも少なくないのが現状です。そんな中、私はある選手に出会い、感動しました。

百メートルの記録を測定するために、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅に行ったときのことです。そのとき義手や義足の方が、練習にきていました。その選手の中に、片大腿義足の陸上競技選手の山本篤さんがいらっしゃいました。私達が百メートル走る前に、山本選手が走っているのを見て、とてもカッコいいなあと思いまし

た。そして先生から、パラリンピックに出た方と聞いて、さらにおどろきました。

その後、私と友達二人が走る番が来たときに山本選手が近づいてきて、

「僕達も一緒に走りますよ。」と、気軽に言うてくださいました。私は、義足の方にも、パラリンピックに出る方に会うだけでもすごいのに、一緒に走るなんてと思うと、胸がどきどきしました。実際、一緒に走らせてもらうと、と中まで何とか抜かされませんでした。ですが、抜かされてからの速さを実感し、本当にすごいなあと思いました。義足を自分の足のように入れて、言葉で言い表せないほど、びっくりしました。

家に帰ってからすぐに、山本選手について調べました。山本選手は、事故で足を失ったと書かれていました。私は、事故で足を失ったからよく立ち直れるなあと思いました。これまで山本選手は事故で足を失った時だけでなく、周りからひどい事を言われたり、されたりして辛いことがたくさんあったと思います。それなのに、陸上競技を続け、銀メダルもとるなど活躍

し、今も競技力向上を目指してトレーニングを続けています。私なら、もうダメだとネガティブになり、色々な場面で諦めたり、嫌になってしまおうと思います。でも、山本選手と話したとき、とてもフレンドリーに接してくださいました。

あるインタビューで山本選手は、「脚がなくなったら何もできなくなるというイメージは持っていなかった。むしろ、脚がなくなってもスノボはしたいなって考えていましたね。」

と答えていました。

このようなことから私は、山本選手のように、どんなことがあっても前を向いていられるような人になりたいと思いました。

最後に、障害者だからということは差別をする理由にはなりません。誰しも等しく人権をもっています。私のように障害者の方から学び、助けられる事もあると思います。障害者も仲間であって助け合おうべき存在です。これからの世界、差別などがなくなり、一人一人が自分らしく生きることができる社会を作っていくことが大切だと感じています。